

## 令和7年度 消防団員セーフティ・ファーストエイド（S-F A）研修を行いました

令和8年1月17日（土）ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センターで、消防団員等公務災害補償等共済基金様のご協力の下、消防団員セーフティ・ファーストエイド（S-F A）研修を、以下の消防基金講師の皆様と、滋賀県内でご活躍をされている救急救命士6名様のお力添えを賜り実施いたしました。

### 講 師

<b>【外科的応急処置】</b>
国立健康危機管理研究機構危機管理運営局/DMAT 事務局 救急救命士 小森 健史（こもり たけし） 様
<b>【外科的応急処置】</b>
京都橘大学 健康科学部 救急救命学科教員 滋賀医科大学 集中治療部 益満 茜（ますみつ あかね） 様
<b>【外科的応急処置】</b>
東京科学大学医学部付属病院 救命救急センター救急救命士 北原 嶺（きたはら れい） 様
<b>【P F A 心理的応急処置】</b>
長野県立こころの医療センター駒ヶ根 精神科研修・研究センター 精神科医師 鵜澤 正寛（うざわ まさひろ） 様

前半は、災害時における応急手当として約2時間の講義や実技をとおして、自身の安全を確保した上で仲間の応急処置を適切に対応できる能力を学び、後半約1時間は、災害現場で凄惨な場面に遭遇した際の惨事ストレスについての知識と対応を学びました。

災害時の応急手当では、状況評価、初期評価および救急隊への申し送りの良い例/悪い例を講師の実演から学び、その後は35名が6班に分かれ、圧迫止血、穿通性異物の固定（エマージェンシーバンテージの使用方法）を班ごとに個別で講師から学びました。実習の最後には、実演を消防団員様にしていただき、実習の総合訓練としました。

後半は、災害時におけるメンタルヘルスケア（心理的応急処置）として約1時間、人道支援や災害時のメンタルヘルス、心理的応急処置、支援者自身のセルフケアの方法などを講義やロールプレイをとおして学びました。

先生方の的確な指示の下、参加された団員の皆様は、真剣に聞き入り、メモを取るなどされており、一日を通して様々な処置とケアの仕方を学ばれました。研修、大変お疲れさまでした。









